
第23回「信用金庫社会貢献賞」の受賞活動決まる! 一「全員参加のボランティア活動」 一

但陽信用金庫(兵庫県)が会長賞に

一般社団法人全国信用金庫協会

全国信用金庫協会(会長:佐藤 浩二)が実施している、信用金庫業界の顕彰制度第23回「信用金庫社会貢献賞」の受賞信用金庫、個人賞受賞者がこのほど決定いたしましたので、お知らせします。

第23回「信用金庫社会貢献賞」受賞活動

賞の種類	信用金庫名(都道府県)	受 賞 活 動 名
会長賞	但 陽 信用金庫(兵庫県)	全職員参加のボランティア活動
Face to Face 賞	鶴 岡 信用金庫(山形県)	信金のネットワークを活かした観光振興
	東京東信用金庫(東京都) 気仙沼信用金庫(宮城県)	産学官金連携「地産都消プロジェクト」
	世 田 谷 信用金庫(東京都)	せたがやホタル祭りとサギ草市
個人賞	日 高 信用金庫(北海道) しんぽ ゆうじ 新保 雄司 氏	創立 100 年の映画館「大黒座」支援活動
	三 条 信用金庫(新潟県) しかだ やすひろ 鹿田 康弘 氏	「三条神楽」の伝承と地域振興への貢献
	筑 後 信用金庫(福岡県) さかた こうじ 坂田 康治 氏	永年の災害ボランティア活動
地域活性化しんきん 運動・優秀賞	城 南 信用金庫(東京都)	「"よい仕事おこし"フェア」で地方創生
	島田掛川信用金庫(静岡県)	ハローワークと連携した人材確保支援

本賞は、地域に生まれ、地域と共に歩む信用金庫が、様々な分野で地域貢献・社会 貢献活動を実践している真摯な姿を多くの方々に知っていただくとともに、地域に おける存在価値を一層高めていくことを目的に、1997年に創設いたしました。こ のような、地域に根ざした永年にわたる信用金庫の地道な活動に光を当て、これを顕 彰することは大きな意義があると考えております。

今回は、昨年10月から12月までの募集期間に、163信用金庫・3関係団体か ら559件の応募がありました。その活動内容は多岐にわたっており、環境保全や 社会福祉、金融教育支援、高齢化社会への対応のほか、東日本大震災からの復興支援、 地域活性化への取り組み、次世代経営者の育成、取引先の販路拡大策など、どれも地域 に根ざした信用金庫の不断の努力と叡智を結集したものとなっています。選考委員に よる厳正な審査の結果、会長賞をはじめとする受賞7信用金庫、個人賞受賞3名の活動 が決定いたしました。

<参考> 第23回「信用金庫社会貢献賞」応募状況

地区別応募状況

犬況	活動分野別応募状況

地区名	金庫・ 団体数	応 募 件 数
北 海 道	1 4	3 7
東北	1 5	3 4
関東	3 3	9 2
東京	1 3	53
北陸	9	1 8
東海	2 6	130
近畿	2 4	9 7
中 国	1 2	4 9
四国	5	7
九州北部	5	1 6
南九州	7	2 2
団体	3	4
合 計	166	5 5 9

活 動 分 野	応募件数
地域社会活動	363
スポーツ	5 6
社会福祉	2 4
芸術・文化	2 6
教 育	3 6
環境	3 6
災害救援	1 2
史跡・伝統文化保存	6
合 計	559

本件についてのお問合せは、全国信用金庫協会 広報部 小曽根、今林、坂本(真)、袴田 (TEL.O3-3517-5722 FAX.O3-3517-5792)までお願いいたします。

第23回「信用金庫社会貢献賞」の選考総評と受賞活動の概要

1. 選考総評 相互扶助の精神のもと、地域の価値を高め、共に協力・連携していくことが求められている

選考委員 村本 孜氏(成城大学名誉教授)

第23回信用金庫社会貢献賞の選考を終えて、ある種の感慨を抱いている。それは、本 賞が20年以上の蓄積を経て、その成熟度が増したからかもしれない。各信用金庫が、自ら の活動を見直し、再発見した結果が良く反映されているからであろう。

今年もFace to Face賞には133金庫・334活動、個人賞には28金庫・38活動、地域活性化しんきん運動には88金庫・187活動の応募があった。延べ249金庫・559活動である。この多数の応募から入賞活動を選ぶのは容易ではない。今回、惜しくも入賞を逸した金庫・活動におかれては、継続して応募されることを期待したい。特に、個人賞には長年にわたる活動が目白押しで、甲乙を付け難い活動が多いので、諦めることなく応募していただきたい。

従来、Face to Face賞、地域活性化しんきん運動・優秀賞の選考は選考委員の評価が異なり、多岐にわたることも多く、収斂するまで議論が活発に行なわれることが多い。ところが、今年は、入賞した活動について、多くの選考委員が等しく支持する結果となった。いわゆる衆目の一致する活動が受賞した印象がある。中には半世紀にわたる活動、四半世紀にわたる活動もあり、「継続は力」を体現しているものであった。また、内閣官房まち・ひと・しごと創生本部の「地方創生に資する金融機関等の『特徴的な取組事例』」に選考され、内閣府特命担当大臣(地方創生担当)の表彰を受けた活動も含まれており、普遍的な活動であることを示している。

今年の受賞活動の特色は長期にわたるものが多いということと、複数の金庫のコラボないし連携・協働の活動が見られたことである。信用金庫の横連携は、法的に地域制約のある中で、新たな事業展開の有力な選択肢でもある。よく地産地消といわれ、地域経済の活性化の有力な手法と認識されているが、地産都消・地産他消とでもいうべき活動は地域創生の重要な切り口である。異なる地域間でコラボすることは、同じ理念を共有する信用金庫らしい地域創生の姿であろう。

長期の活動として圧巻なのは世田谷信用金庫の活動で、重要文化財で東京都の史跡に指定されている世田谷代官屋敷(彦根藩世田谷領20か村の代官を世襲した大場家の役宅)を開放して半世紀にわたって地元の子どもたちに自然に親しんでもらう活動である。世田谷という都内の住宅地で「世田谷ボロ市」と並ぶ地元貢献活動といえよう。

会長賞に輝いた但陽信用金庫の活動は、全職員参加の取り組みで阪神・淡路大震災の被災者支援をきっかけにその後も幅広く高齢者・障がい者向け移送サービス、独居高齢者と緊急通報事業などのボランティア活動を四半世紀にわたって行い、職員の社会教育にも資するなど、信用金庫の社会貢献活動の模範との評価が選考委員から上がり、ほぼ全員が会長賞に推した活動であった。公益社団法人日本フィランソロピー協会の2013年度企業フィランソロピー賞「地域のよろずや賞」を受賞したほか、ニッキン賞、兵庫県「くすのき賞」にも輝いている。

今回応募のあった559の活動には、惜しくも選に漏れたものも多い。是非、次年度以降 も応募していただくことを期待している。特に、長年の取り組みには信用金庫が地域で愛さ れていることを示すメルクマールとなるものが多いからである。また、受賞活動をご覧いた だき、わが信用金庫でも十分選考に値するものがある、との気付きになると幸いである。

選考作業の時期は、新型コロナウイルスの流行拡大が懸念されており、地元の観光業を始め、商店街等が影響をこうむり、地域経済の不振がその後顕在化しているかもしれない。このような時期だからこそ、信用金庫の本業が重要になる。相互扶助の精神を基礎に、地域の価値を高めて、共に協力・連携していくことが求められる。そのような活動が次年度以降の社会貢献賞に応募されることをおおいに期待し、社会貢献賞の表彰を通じて全金庫で共有されることを願ってやまない。

2. 受賞活動の概要

【会長賞】

但陽信用金庫(兵庫県)/全職員参加のボランティア活動

但陽信用金庫では、各部店において地域の公園や神社、近隣道路等の清掃活動、地域イベントへの参加等のボランティア活動を行っていたが、1995年に起きた阪神・淡路大震災をきっかけに、信用金庫全体で被災者支援のボランティア活動を開始。

ボランティア活動を行っていく中で、職員が高齢者や障がい者等の社会的弱者といわれる 方々と接することで、人間としての「やさしさ・おもいやり・感謝」の心を体感できること を実感し、理事長が人間教育としての効果があると確信。それ以降、永続的な人間教育の一 環として取り組んでいる。

2000年1月には、永続的な社員教育として取り組むために「特定非営利活動法人但陽ボランティアセンター」を設立。従前の被災者支援にとどまらず、車いす生活の方の移動を支援する「移送サービス」や、独居高齢者との緊急通報ならびにケアコールを行う「ベルボックス」等を主な事業として、毎日8名の職員を派遣している。職員全員が持ち回りで担当し、移送件数は2020年3月31日時点で約2万8200件にのぼる。また、緊急通報システム「ベルボックス」は、ボタンを押せば同センターにつながる。

このほかにも、2004年5月から、独居高齢者や昼間独居高齢者宅等を対象とした最低月1回のケア訪問を開始。取引先を中心に毎月約2300先を115名の渉外担当者が巡回する。日常の心配事などどんなことでも気軽に相談できるよう、但陽ボランティセンターと但陽信用金庫の地域共生課とが連携して体制を整えている。

約25年間、多岐にわたる地域福祉に関わった職員は延べ2万8900人余り(2020年3月31日現在)。同金庫の職員ほぼ全員が「認知症サポーター」の資格を有しており、本業と福祉の両輪で地域での存在価値を高めている。

【Face to Face 賞】

鶴岡信用金庫(山形県)/信金のネットワークを活かした観光振興

地域の観光関連産業の活性化で地域経済全体の活性化に寄与しようと、2005年から信用金庫業界のネットワークを活用し、全国の信用金庫の年金友の会や旅行会を庄内地域に招致する活動を始めた。

2010年3月、鶴岡信用金庫の加藤捷男理事長(現会長)が県から「やまがた特命観光・つや姫大使」の委嘱を受けたことをきっかけに、全職員が地域の広告塔になろうと、東日本を中心とした全国の約70金庫に向け、観光パンフレットや地域情報誌を定期的に届けるなど、積極的な情報発信を開始。

2013年5月には、鶴岡市ならびに酒田市と「観光招致に関する連携協定」を締結。観光情報の発信にあたり、市行政や庄内観光コンベンション協会、観光物産協会とも連携を図り内容の充実を図っている。そのほかにも、行政と連携した歓迎セレモニーの開催や、地元庄内の文化や歴史に関する知識を習得し、観光客のサポートを行う「観光サポートガイド」の研修を受けた職員による観光サポートを行っている。不慣れでもまごころの伝わる接客は好評で、お客さまの満足度向上に貢献している。

また、信用金庫間の連携にも積極的に取り組んでおり、現在12金庫と連携協定を締結。 相互への観光招致に取り組むほか、業務の推進、情報交換などを行い、相互の地域活性化に 向け取り組んでいる。

これらの活動をとおして、2019年度には全国から4団体、約600人の観光客が庄内を訪れ、2005年からの総誘客数は70団体、約2万人(2020年3月31日現在)に上った。また、来庄してくれた信用金庫のご当地へ、鶴岡信用金庫のお客さまをお連れする旅行企画「鶴の恩返しツアー」を実施することで、相互の交流人口の増加に取り組んでいる。

【Face to Face 賞】

東京東信用金庫(東京都)・気仙沼信用金庫(宮城県)/ 産学官金連携「地産都消プロジェクト」

東京東信用金庫は、気仙沼信用金庫、東京海洋大学と連携し、2011年に発生した東日本 大震災で打撃を受けた三陸気仙沼の漁業者や水産加工業者と、都内の飲食店や食品関連事業者 とを結び付け、販路拡大や差別化を支援する産学官金広域連携事業「地産都消プロジェクト」 を展開している。

地域を発展させていくためには、地域の基盤となっている産業や社会を活性化させていくことが重要であり、また、営業地域が限定されている信用金庫にとって地域の発展は、信用金庫経営において密接に関係する大きな課題でもある。そうした思いから、気仙沼の漁業者と東京近郊の消費者をつなぐことで「地産都消」を促す本プロジェクトが誕生した。

本プロジェクトでは、都内消費地と産地事業者の交流機会の創出と、飲食店経営者やホテルの仕入れ担当者といった参加者の生の声を直接ヒアリングする機会として「気仙沼産メカジキ試食会」を開催。そのほかにも、墨田区商店街連合会、東京商工会議所墨田支部、飲食事業者、墨田区職員、大学教授等で気仙沼市を訪問し、三陸気仙沼求評見本市や現地水産加工工場を見学すると共に、気仙沼市役所、気仙沼商工会議所との意見交換を行う「気仙沼現地視察」を開催するなど、さまざまな交流機会を創出している。

それらの活動の結果、2017年から3年連続で、墨田区内のホテルで、タコとメカジキがフェアメニューの食材として定期採用が決まり、市場を介さない直取引のビジネスマッチングが成立。同区内の飲食店でもメカジキを活用したレギュラーメニューが採用。同区の保育園・幼稚園児を対象にした食育事業「さかな大好き!」を開催し、園児らに魚の生態を説明した後、給食にメカジキのコロッケやサメのステーキを提供したところ好評を博した。

【Face to Face 賞】

世田谷信用金庫(東京都)/せたがやホタル祭りとサギ草市

江戸の風情を今に残す世田谷代官屋敷は、江戸時代中期以来、彦根藩世田谷領20か村の 代官を世襲した大場家の役宅で、都内で初めて国の重要文化財に指定された。

この代官屋敷で毎年開催され、約40年の歴史を持つ「せたがやホタル祭りとサギ草市」は、同屋敷の当主であり世田谷信用金庫の大場信邦理事長(初開催時)が、以前は世田谷にも飛んでいたホタルが近代化で姿を見せなくなったことから、子どもたちへの教育の一貫としてホタルの生態と実際に飛んでいる姿を見せたいという思いから始まった。

世田谷区の花として区民に親しまれている「サギ草」がホタルと同時期に咲くことから、「せたがやホタル祭りとサギ草市」を開くことが考案され、同金庫と地元の人々が協力し、1981年、世田谷代官屋敷、同金庫本店、隣接する天祖神社を会場に、夏のイベントとして開催することとなった。以来、毎年休むことなく継続しており、2020年7月には40回目を迎える(※)。

天祖神社では可憐なサギ草の展示販売が行なわれ、各種の露店が並ぶ。同屋敷の駐車場に

特設されたドームでは、夕方5時頃から約3千匹の平家ボタルが放たれ、幻想的な雰囲気を楽しめる。子ども向けチャリティーイベントも開催しており、売上金の全額は世田谷区社会福祉協議会へ寄付している。また、東日本大震災の復興支援のため「復興物産店」に駐車場を提供しているほか、親子で楽しめる企画や地元商店街による盆踊りなども催す。これらイベント全体の企画運営は実行委員会が行っているが、同金庫は事務局を担うほか、当日の会場案内や警備等に役職員が多数参画している。

同イベントは、区の夏の風物詩としてすっかり定着し、毎年、開催日の2日間で4~5万人の人々が訪れるほどになった。区の貴重な観光資源の一つであり、「にぎわい創生」に大いに貢献している。

※ 脱稿後、2020年の開催は新型コロナウイルス感染症の影響を踏まえ中止となった。

【地域活性化しんきん運動・優秀賞】

城南信用金庫(東京都)/「"よい仕事おこし"フェア」で地方創生

政治、経済、社会など、多方面で課題山積のところへ起きた東日本大震災。この日本の危機的状況を打破するため、各企業が「国や社会を良くすることこそ我々の最大の使命だ」という高い志で力を合わせ、日本再生への一歩を踏み出せたらと考えた。理想と志を共有した多方面の方々が一堂に会し、社会貢献を企図して新たな仕事を掘り起こすことができれば日本を明るく元気にできる、こうした目的でフェアを企画。2012年11月1日、東北地方を中心とした63金庫との共催により、震災直後の"東北を明るく元気に"をテーマに第1回を東京ドームで開催するにいたった。

2013年以降は会場を東京国際フォーラムに移し、出展企業やバイヤー向けにインターネットによる事前の商談予約を可能にするなど、効率的かつ密度の濃い商談を行えるように事務面を変更。2018年度からは9金庫が代表する実行委員会方式に運営を変更し、全国の事業先を信用金庫のネットワークで結び、新たなビジネスマッチングの場を提供している。

8回目となる2019年度は業界連携がいっそう進み、229金庫の協賛と多数の地方公共団体の協力を得るにいたった。来場者も4万7千人を超え、過去最多の出展ブース521社、商談件数4134件と、ビジネスマッチングの成果を着実に積み上げている。そのほかにも、自然災害に見舞われた被災地の復興支援を目的としたチャリティーイベントの開催や、47都道府県が連携する①興こし酒②焼酎③スイーツの3つの開発プロジェクトも展開。

同フェアでは、日本全国の信用金庫、出展者、関係者らの"新しい出会い"が数多く生まれており、信用金庫の一大イベントとして、地方創生の一助となるフェアに成長している。

【地域活性化しんきん運動・優秀賞】

島田掛川信用金庫(静岡県)/ハローワークと連携した人材確保支援

全国的に中小企業者・小規模事業者の人材不足が顕著となるなか、営業活動を通して顧客から島田掛川信用金庫に寄せられた相談のうち、2割近くが人材に関するものであった。これをハローワーク島田の所長に相談したところ、同所長も遠隔地に居住する求職者への情報提供を模索していたことがわかり、両者の連携が相互の課題解決になると考え、2015年10月、本件の取り組みを進めるにいたった。

営業区域内における経済の大きな懸案事項である取引先の人手不足問題に早急に手を打つため、人材確保支援「島田掛川モデル」を考案した。具体的には、信用金庫のATMコーナーに、各ハローワーク(島田・掛川・清水・静岡・焼津・磐田)が発行する求人情報誌を配

架して、各地域の雇用情報を提供。人材確保のニーズが高い同金庫取引先に対しては、ハローワーク所長と職員の同行訪問を月2回実施し、効果的な求人票の記載方法などのアドバイスを行って人材雇用につなげている。さらに、同金庫と島田市等とで開設した島田市産業支援センターでは、ハローワーク職員が出張相談を行う「人材確保の日」を設定。事業所向けに、人材確保・雇用関係助成金制度の活用方法等に関する個別相談会を月1回実施するほか、同センターとハローワーク島田の共催で、同金庫取引先や税理士向けにセミナーを開催している。

この取り組みが先駆的例となって、2016年12月、東海財務局静岡財務事務所の後押しにより、静岡県信用金庫協会と静岡労働局が働き方改革に関する連携協定の具体策を決定する際のモデルとなった。現在では、同連携協定に基づき静岡県内の12ハローワークと9金庫が地域内の雇用支援に取り組むきっかけとなり、「島田掛川モデル」が静岡県内全域に拡大している。

【個人賞】

日高信用金庫(北海道) 新保 雄司氏 /創立100年の映画館「大黒座」支援活動

「大黒座」は、国内屈指の老舗映画館。その前身は創業1918(大正7)年の演芸小屋で、昭和の全盛期には220席の映画館となったが、時代の波と人口減少の煽りで48席に縮小。その後も、奮闘する館主の情熱に共感する映画ファンに支えられながら細々と存続していた。

映画好きな新保氏は30代から支援活動に関わり、仲間と機関誌作りや映画祭を行っていた。転勤で一時離れるも、さらなる窮地を知って「大黒座サポーターズクラブ」(2008年結成)に入会。上映作品のPRやカンパ集めに奔走した。2018年には会長に就任。集客の企画を練り、2019年1、2月は観光バスツアーのコースに組み入れることができた。

金庫職員の親睦行事に映画観賞を入れたり、同金庫のプロモーションビデオを制作し予告時間に放映するなど、金庫と結ぶことも忘れない。「大黒座は浦河にとって大切な文化の灯火。守って観光誘致にもつなげたい」と意欲を燃やす。

【個人賞】

三条信用金庫(新潟県) 鹿田 康弘 氏 / 「三条神楽」の伝承と地域振興への貢献

「三条神楽」は、その起源を200年以上前に遡る出雲流の神楽とされ、山陰地方から北陸地方を経て三条の地に伝えられたとされる。他の地域の神楽に比べ、演目が32舞と非常に多い点が珍しく、1963(昭和38)年に新潟県の無形民族文化財に指定された。

鹿田氏の自宅近くの神社では、春秋の祭りに「三条神楽」が奉納されており、5歳の頃から稚児舞を演じてきた。中学生のときには伶人見習いとして、舞のほか笛や太鼓といったお囃子も習得。大学卒業後は、引き続き春秋の祭典で奉納するほか、三条神楽保存会の一員として、郷土芸能の伝承と後継者育成にも努めている。

演目には、当地の地場産業である金属加工を由縁とした「宝剣作の舞」(刀を作って天皇に献上する舞)がある。最近では市役所や商工会議所等から地域産業のPRとして、市内外のイベントで舞の上演を依頼される機会が多くなり、伝統を守りつつ地域振興へも貢献している。

【個人賞】

筑後信用金庫(福岡県)坂田 康治 氏 /永年の災害ボランティア活動

平成24年7月九州北部豪雨は、坂田氏の住まう近隣にも被害をもたらした。地元の八女市や周辺の被災状況をテレビや新聞で目にするたび、「何かできないか」との思いが募った。「たとえスコップ一杯の泥出しでも被災者のためになるはず」と考えた坂田氏は、単独でボランティアを開始。やがてNPO法人などを通じて人脈が広がると参加の機会が増え、八女市、うきは市、朝倉市、広島市などへと活動範囲も広まっていった。

2013年3月、勤務先の筑後信用金庫内でも人員を募集してみたところ、多数の参加者を得ることができた。災害復旧・復興には長期間を要することから、2カ月に1回程度の募集をかけ、その都度10~15名ほどが地域復興の一助として活動している。

現在は坂田氏が町行政の役員でもあることから、行政区内の防災面でも教育委員会や消防署と連携を図り、地域住民や子どもたちへの防災教育にも熱心に取り組んでいる。

以 上

<参 考> 第23回「信用金庫社会貢献賞」について

【創設目的】 地域に生まれ、地域とともに歩む信用金庫の原点を踏まえ、地域の発展に貢献する信用金庫の真摯な姿を広くアピールし、お客様や地域の信頼を揺るぎないものとするとともに、地域での存在感を一段と高めていく。

【対象活動】 信用金庫にふさわしい地域に根ざした活動で、地域振興、社会福祉、芸術・文化 支援、史跡・伝統文化保存、交通安全、教育支援、留学生・在日外国人支援、環境 保全、各種ボランティア等の地域社会活動および災害救援活動等の分野とする。

【表彰対象】 ・信用金庫および信用金庫役職員(個人・グループ)

・地区・府県信用金庫協会、中央団体

【選考基準】 活動の継続性(3年以上継続された活動であること。ただし、Face to Face賞の 応募活動のうち、その特性から活動期間が必ずしも長期に亘らないもの、地域活性化 しんきん運動・優秀賞は除く)、活動目的の社会的意義、地域との一体性(地域に 溶け込んだ地域の方々と一体となった取組み)、活動の困難度、援助を受ける側の 評価・感謝の度合い、関係者または地域社会に与えた影響、活動内容・方法のユニークさ、などを総合的に判断する。

【応募期間】 2019年10月1日から12月30日まで

【選考委員】 ※所属等は2020年3月現在、敬称略

石田 徹 日本商工会議所 専務理事

島田 京子 元 公益財団法人 横浜市芸術文化振興財団 専務理事

髙橋 陽子 公益社団法人 日本フィランソロピー協会 理事長

野坂 雅一 総務省 地方財政審議会 委員

堀田 力 公益財団法人 さわやか福祉財団 会長

佐藤 浩二 一般社団法人全国信用金庫協会 会長

日沖 肇 信金中央金庫 副理事長

增田 寿幸 一般社団法人全国信用金庫協会 広報委員会 委員長

【各賞の内容】

会 長 賞・・・活動の社会的意義、地域との一体感、地域社会に与えた影響等を総合的に 判断し、Face to Face 賞、地域活性化しんきん運動・優秀賞の受賞候補活動の 中から最も優れた活動に対し与えるものとする。

Face to Face 賞・・・・地域金融機関にふさわしい、地域社会に溶け込んだ、地域の方々との一体感を深めることに寄与した活動および地域金融機関の社会貢献活動として今後の取組みが期待され、奨励される活動、ならびにその特性から活動期間が必ずしも長期に亘らないものであっても、環境・社会問題への取組み、災害復旧支援など関係者や地域社会に大きく貢献した活動等に対して与えるものとする。

地域活性化しんきん運動・優秀賞・・・・中小企業のライフサイクルや経営課題等に応じた支援や地域経済の面的な活性化をめざす活動のうち、各々の地域社会の実情と信用金庫の特性に合わせたユニークで、他の範となる活動に対して与えるものとする。

個 人 賞・・・個人あるいはグループの取組みで、信用金庫職員として他の範となる活動 に対して与えるものとする。